

# 地域社会についての意識調査結果の概要

(財)日本興亜福祉財団社会老年学研究所

主席研究員 片桐 恵子

東京大学高齢社会総合研究機構

特任研究員 菅原 育子

昨年 10 月から 11 月にかけて東京都練馬区と岡山県岡山市に住む方を対象に地域社会に関する意識調査を実施いたしました。皆様におかれましては調査にご協力いただきありがとうございました。ここに簡単に調査の結果の概要をご報告させていただきます。

## 1. ご協力いただいた方々

東京都練馬区と岡山県岡山市に住む 50 歳から 69 歳の方それぞれ 1,000 名を対象にアンケートを行いました。ご回答いただいたのは 1177 名（回収率 58.9%）、そのうち男性は 551 名（46.8%）、女性は 626 名（53.2%）でした。また練馬区でご回答いただいた方は 561 名、岡山市の方は 616 名でした。

回答いただいた方の現在の職業は表 1 の通りでした。練馬区と岡山市とも週労働 30 時間以上の従業員の方が約 3 割を占め、大きな違いは見られませんでした。

表 1 現在の職業

	岡山市	練馬区
週労働時間30時間以上の従業員	185 30.1%	183 32.9%
週労働時間30時間未満のパートタイマーなどで就業	110 17.9%	102 18.3%
自営業主	77 12.5%	94 16.9%
家族従業(家業などの手伝い)・内職	40 6.5%	27 4.8%
働いていない (専業主婦・主夫。定年退職者、休職中など)	195 31.8%	145 26.0%
その他	7 1.1%	6 1.1%

またこれまでに一番長く従事した職業は表 2 の通りでした。ここでは練馬区と岡山市で違いがみられました。ともにもっとも多かったのは中小企業で働いていた人でしたが、岡山市では全体の 1/3 を占めていたのに対し、練馬区では 26.5%。また練馬区では自営業を営む人が 25.3%と岡山市より多くみられました。専業主婦の割合は 1 割強と地域による差はありませんでした。

表 2 一番長く従事した職業

	岡山市	練馬区
農林漁業(家族従事者を含む)	6 1.0%	4 0.7%
自営業(商工サービス業・自由業等)	122 19.8%	141 25.3%
常勤の被雇用者(大企業)	61 9.9%	95 17.0%
常勤の被雇用者(中小企業)	203 33.0%	148 26.5%
公務員	55 8.9%	40 7.2%
臨時・パート	80 13.0%	51 9.1%
内職	7 1.1%	2 0.4%
専業主婦	77 12.5%	71 12.7%
その他の仕事	4 0.7%	4 0.7%
仕事に就いたことはない	0 0.0%	2 0.4%

また持ち家率は岡山市で 85.7%、練馬区で 68.2%と 2 割近い差がみられましたが、いずれも全国平均 64.3%を上回る状況にありました。

近年、団塊世代が 60 歳の定年年齢に達し始め、その動向がなにかと世間の注目を集めていますが、今回の調査では団塊世代の人ほどの位の割合を占めていたのでしょうか。

全体では団塊世代は 20.6%、岡山市では 23.1%、練馬区では 17.8%と岡山市の方がやや多いという結果になりました。

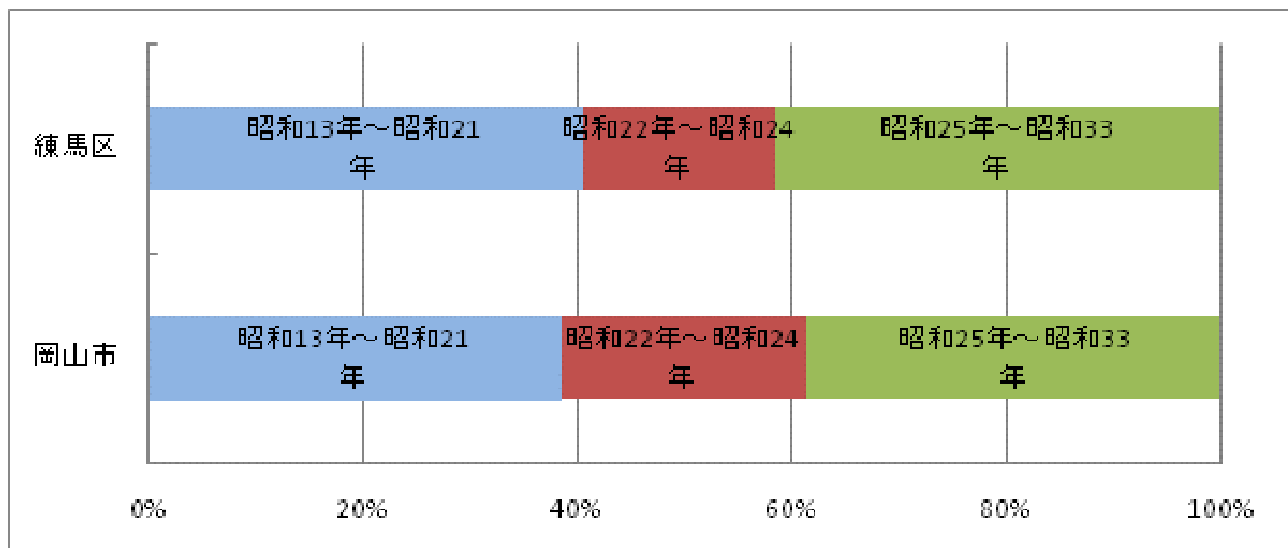


図 1 生まれた年

## 2. 地域社会とのかかわり

本調査の目的の一つは大都市と地方中核都市の違いを検討することです。現在岡山市と練馬区に住んでいる方は、これまで同じ地域に住み続けていたのでしょうか。それともいろいろな場所に住んできた方なのでしょうか（図2）。

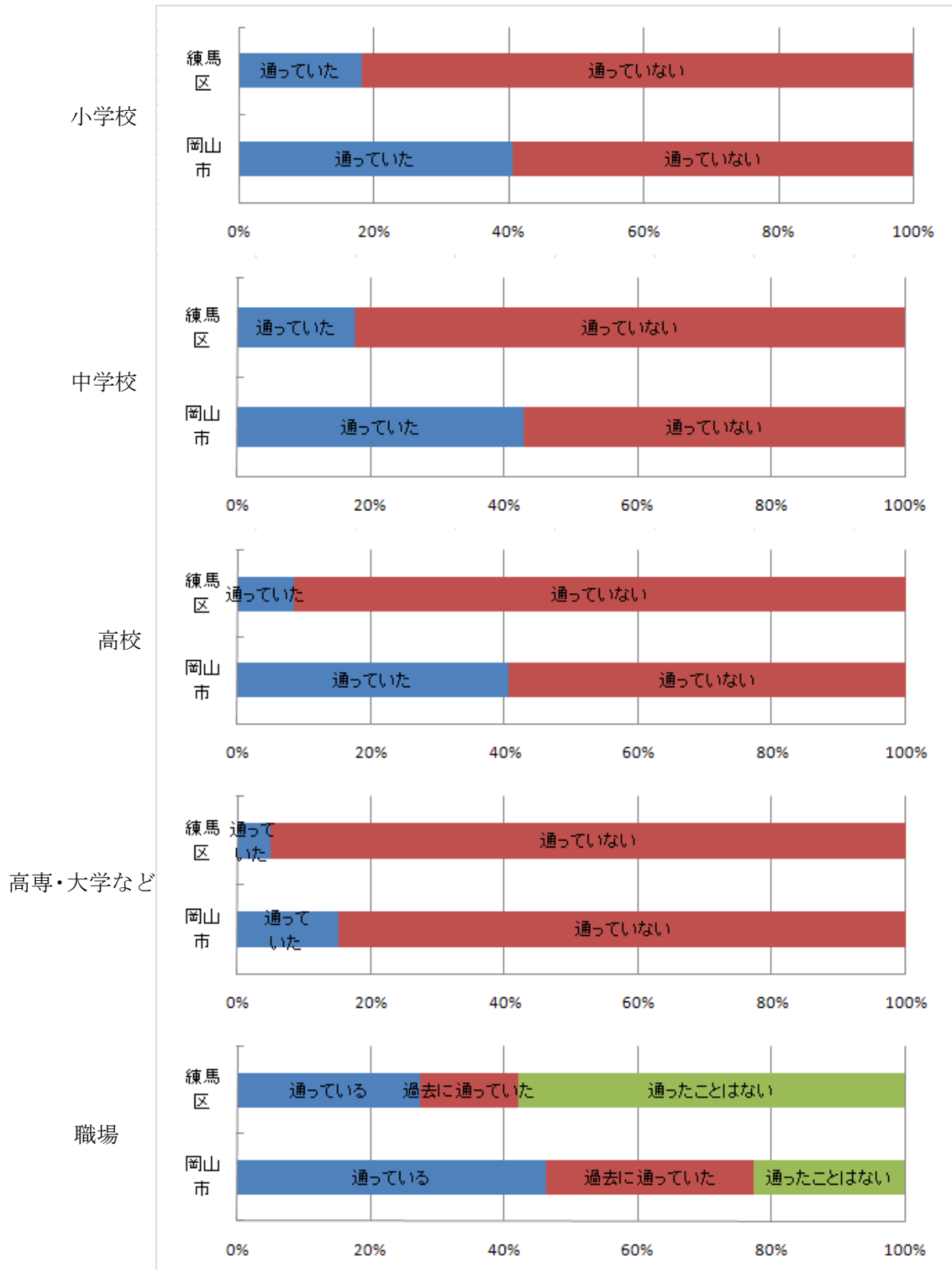
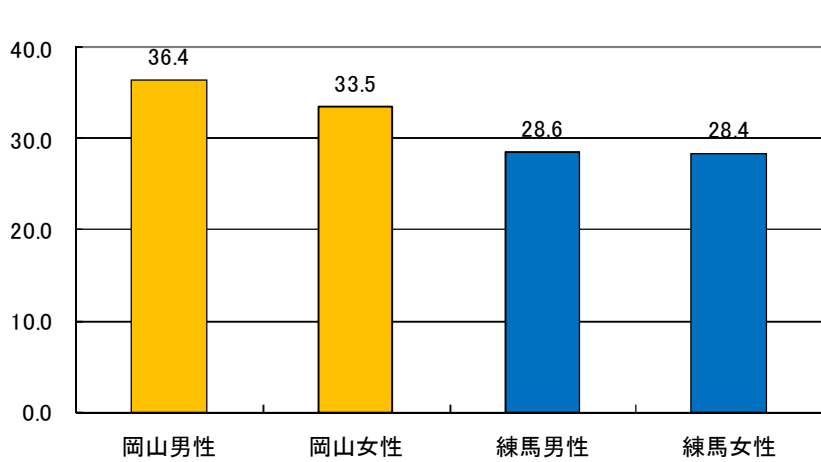


図2 現在と同じ市・区に通っていたかどうか

ここでも岡山市と練馬区には差が見られます。両地域とも大学などの時期は離れていた人が多いですが、岡山市では小学生から高校生まで、あるいは職場も現在住む市に通った人が40%を超えるのに対し、練馬区では20%前後であり、練馬区の方が居住地域を移動してきた人が多いことがわかります。



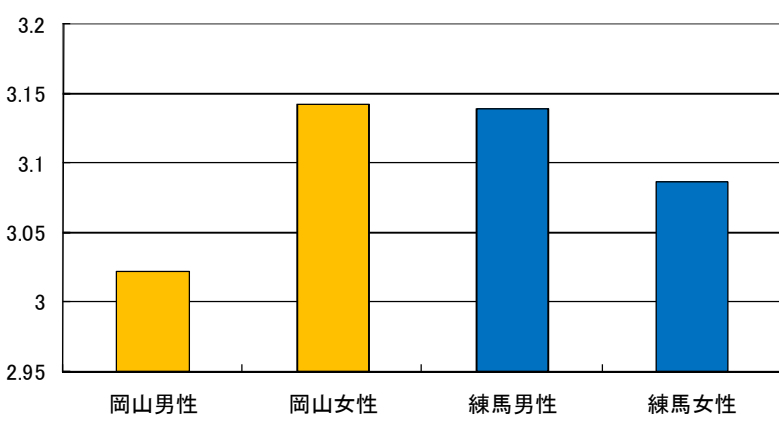
さらに現地域での居住年数を見ると、岡山市と練馬区では大きな差がみられました(図3)。

岡山市の人は30年以上、特に男性は35年以上と人生の半分くらいは今の地域に住み続けていたことがわかります。

図3 居住年数

長く同じ地域に居住していることは、今の地域が住みやすい地域であるとの評価や地域への愛着にも結びついていることが予想されます。

図4は住んでいる地域への満足度の高さを示しています。意外なことに、もっとも居住年数の長かった岡山市の男性がもっとも低くなり、岡山市の女性と練馬区の男性が満足度が高いという結果になりました。



長く住むとそれだけ欠点も目に付き、不満が増すのか、或いは自発的にその地域に住み続けているわけではなく、いろいろな制約があるために、現地域を離れられないため居住年数が長くなっていたとも考えられます。

図4 住んでいる地域への満足度

次に地域に対する思いを聞いてみました。「この地域に住むことは私にとって適している」「この地域に住むことは私にとって大切なことである」「この地域は私にとって居心地がいい」といった、住む地域に対するプラスの評価は岡山市でも練馬区でも同じように高いのですが、「この地域に住み続けると思う」「地

域活動に積極的に参加したい」「住んでいる地域に貢献したい」といった地域へのより積極的な関わりを示す項目については、すべて岡山市の方が練馬区より高いという差が見られ（図5～図7）、大都会の居住者と地方都市に住む人の地域社会への思いの違いを端的に示しています。都会に住む人は地域からの得る利便性は享受するものの、地域活動への参加や地域社会への貢献など、地域社会とのかかわりはあまり求めていない様子がわかります。

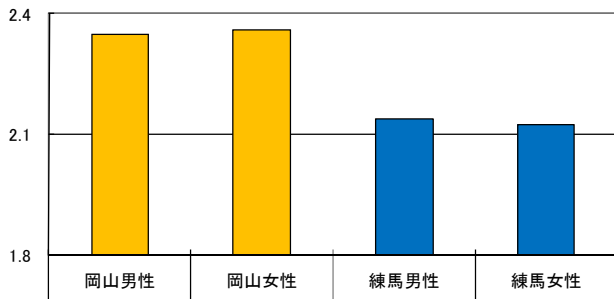


図5 この地域に住み続けるか

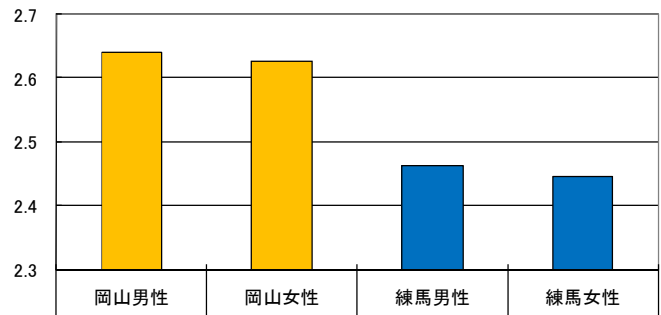


図6 地域活動に積極的に参加したいか

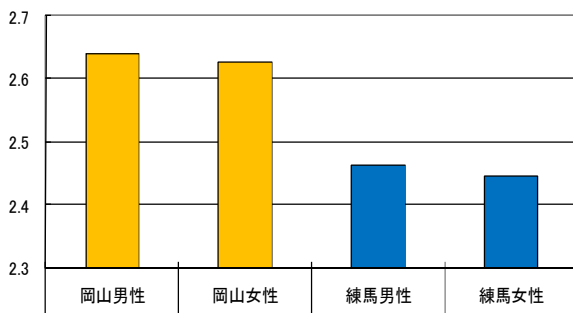


図7 住んでいる地域に貢献したいか

### 3. 地域での人付き合い

地域に根差した人付き合いも両地域及び男女で差が見られました。「あいさつを交わす人」「多少の世間話など会話を交わす人」は女性の方が男性より多く、「地域の活動や行事に誘いあう人」「困った時にお互い助け合える人」は岡山市の人の方が多く、「お互いの家を行き来したり一緒に遊びに行ったりする人」は岡山の女性が最も多く、ついで岡山の男性、練馬の女性、練馬の男性が最も少ないという結果になりました。

次に年賀状の交換をする人数をあげてもらい、その人の人付き合いの大きさの指標としました。年賀状をやりとりする人のうち、同じ市・区に住む人数と親しい付き合いをしている人数をあげてもらいました。その結果を示したものが図8です。

男性は女性より人付き合いが広く、特に練馬の男性が最も多くの人数の人と年賀状を交換していました。逆に最も少ないのが岡山の女性でした。

年賀状をやりとりする人のうち同じ市・区に住む人数は岡山の男性が最も高くなっており、岡山の人たちの人付き合いは同じ地域に住む人の割合が高く、地域社会での緊密な付き合いがなされている様子がみとれます。親しく付き合いをしている人数は岡山の男性が最も高いという結果になりました。

一般に女性の方が豊かな地域での豊かな人間関係を築いているといわれていますが、性別による差に加えて、大都市と地方都市の人間関係の密度の違いも浮き彫りになりました。岡山市では地域社会での親しい付き合いが盛んに行われている様子がみとれるのに対し、練馬の男性は広く浅い付き合いが多く、練馬の人々の付き合いは地域社会を超えて広がっている様子がみとれました。

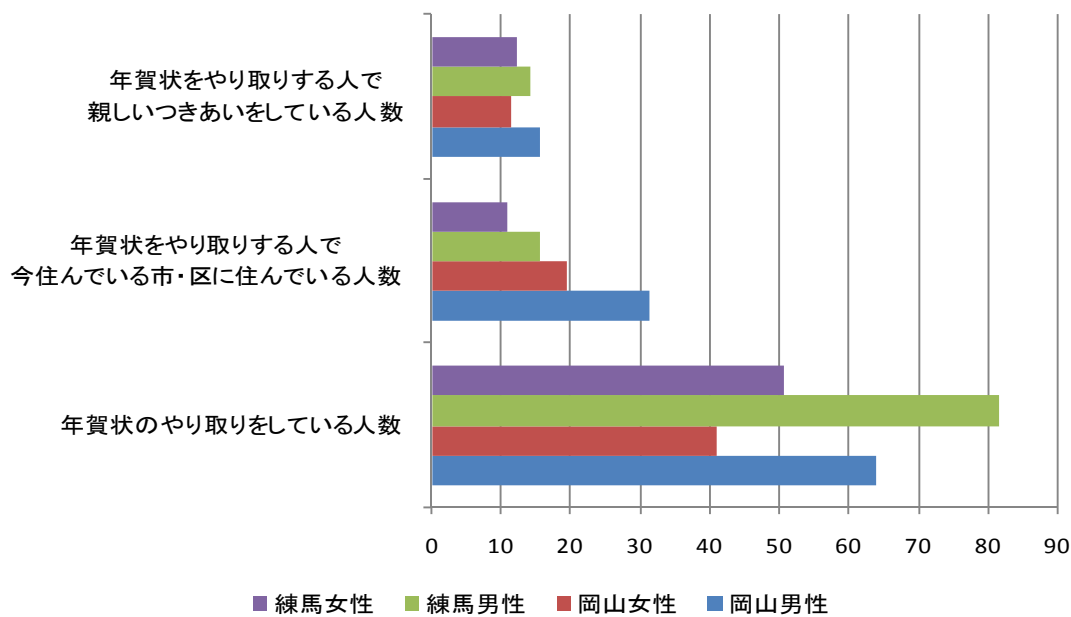


図 8 地域別、男女別にみた年賀状のやりとり

#### 4. 社会参加の状況

では、地域活動のもう一つの表れととらえられる、社会参加の状況はどうだったのでしょうか。社会参加活動をしているかどうかではやはり地域の差がでました。岡山市では約半数の人が何らかの社会参加活動をしているのに対し、練馬区では参加している人は4割弱でした。図9は社会参加活動の種類別にどのくらいの参加者がいたかどうかを示したグラフです。

最も参加者が多かったのは「自治会・町内会・老人会・婦人会」、ついで「学習会や習いごとのグループ」でした。逆にボランティア団体への参加者は少なく、また最近メディアなどで紹介される、インターネットなどを利用した電子町内会や地域のメーリングリストに参加している人はほとんどいませんでした。

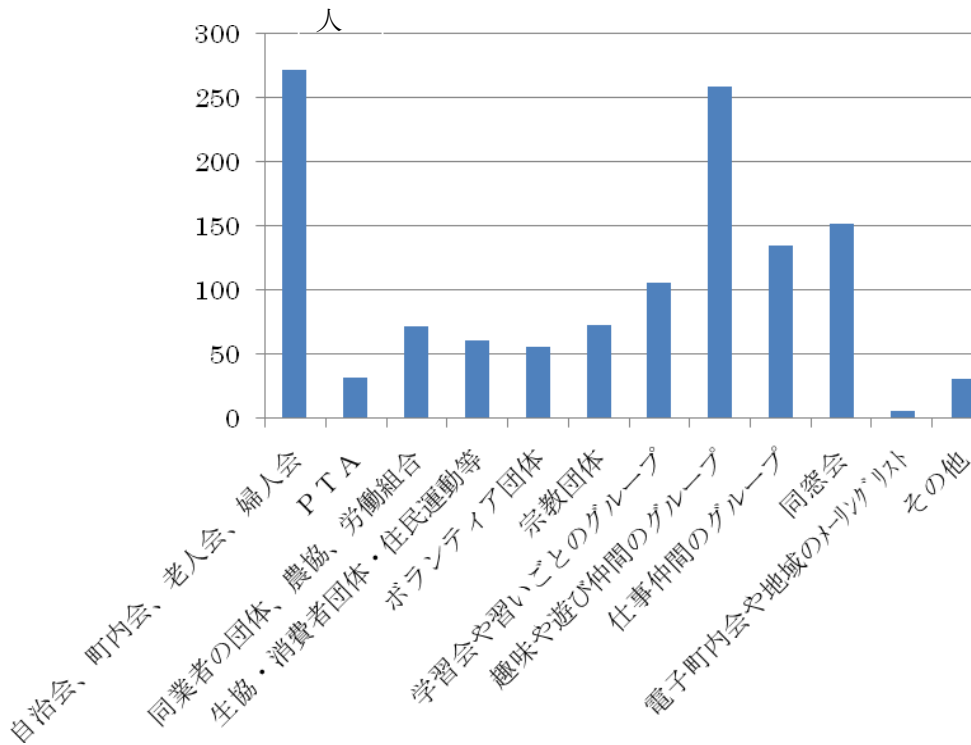


図9 社会参加活動の種類

社会参加の状況を地域別男女別で見たのが図10です。「自治会・町内会・老人会・婦人会」は、岡山市の男女の参加率は6割を超えていました。岡山市は全国1の自治会組織率を誇るとのことですから、うなずける結果です。一方、練馬の男性は3割程度、女性でも4割程度しか参加しておらず、地域社会活動が地方都市に比べて活発でない様子がわかります。

「学習会や習いごとのグループ」は男女で大きな違いがみられ、女性は3割程度が参加しているのに対し、男性は1割程度です。「趣味や遊び仲間のグループ」は参加する人が多く、特に練馬の女性では6割近くに上っています。一番社会参加率が低い傾向にある練馬の男性が最も活発なのが、「仕事仲間のグループ」と「同窓会」で、4割近くにのびりました。住んでいる地域に人付き合いの輪を持っていない、大都市に住む男性にとっては、「仕事」と「学校」で培ったつきあいが大きな意味を持つといえるでしょう。

最後に、社会貢献を目的とするボランティア団体や、住民・市民運動への参加は全体的に低調な傾向にありました。

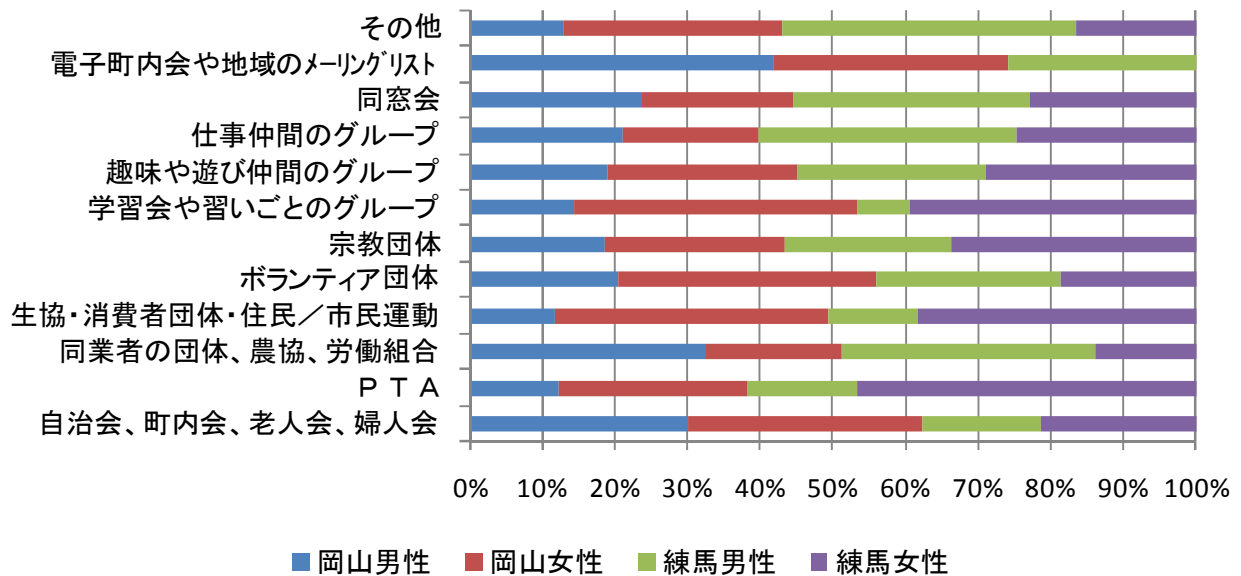


図 10 地域別、男女別にみた社会参加の割合

## 5. さいごに

最後に、全体的にみた現在の幸せ度をきいてみたところ、地方や男女による違いは見られず、多くの人がある程度の幸せを感じていることがわかりました（図 11）。地域社会とのかかわりかたはやはり都会と地方都市では違いがいろいろみられましたが、それぞれ異なる社会参加活動や人付き合いの輪を築いていました。岡山市では地域社会に深く根ざした生活が営まれていましたが、反面、人づきあいの煩わしさも訴えられている一方、練馬区では広く自由な人づきあいを謳歌している面もあり、一概にどちらがいいということとはできないと思います。ただ、練馬区ではいざという時に助けとなる地域ネットワークの脆弱さは指摘しておくべきと思われます。

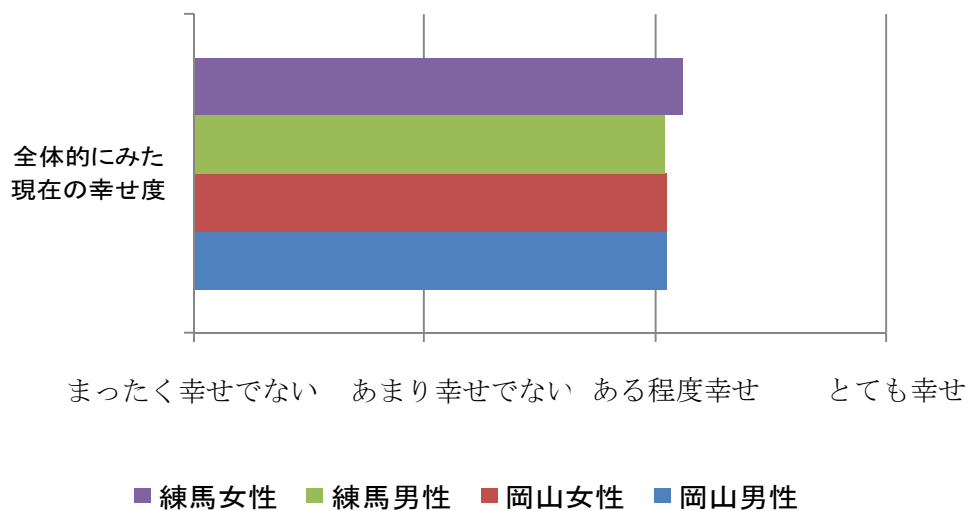


図 11 全体的にみた幸せ度